

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2013年10月)

発表日2013年12月9日(月)

～季節調整済経常収支が2ヶ月連続の赤字に～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 星野 卓也
TEL : 03-5221-4526

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
				貿易収支	サービス収支		
2012	7月	6,625	3,602	▲ 7,558	▲ 4,936	▲ 2,622	12,106
	8月	4,448	6,559	▲ 4,984	▲ 2,590	▲ 2,394	12,400
	9月	5,137	▲ 402	▲ 11,951	▲ 8,980	▲ 2,971	12,368
	10月	4,208	5,010	▲ 6,403	▲ 4,498	▲ 1,905	12,144
	11月	▲ 1,796	3,633	▲ 7,179	▲ 5,092	▲ 2,087	11,744
	12月	▲ 2,307	2,152	▲ 8,537	▲ 6,331	▲ 2,206	11,983
2013	1月	▲ 3,484	4,356	▲ 7,805	▲ 6,062	▲ 1,743	11,923
	2月	6,497	▲ 207	▲ 13,100	▲ 11,465	▲ 1,635	13,573
	3月	12,831	3,672	▲ 9,100	▲ 7,704	▲ 1,396	13,555
	4月	7,844	8,976	▲ 8,984	▲ 8,023	▲ 961	18,964
	5月	5,666	6,464	▲ 4,789	▲ 4,776	▲ 13	12,462
	6月	3,777	6,930	▲ 6,545	▲ 5,751	▲ 794	14,343
	7月	5,773	3,337	▲ 10,390	▲ 9,219	▲ 1,170	14,633
	8月	1,615	3,518	▲ 7,382	▲ 5,643	▲ 1,739	11,603
	9月	5,873	▲ 1,252	▲ 14,949	▲ 13,487	▲ 1,462	14,675
	10月	▲ 1,279	▲ 593	▲ 12,748	▲ 10,982	▲ 1,767	13,154

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支（季節調整値）が2ヶ月連続の赤字。統計が比較可能な1996年以降初

10月の経常収支（原数値）は1,279億円の赤字（コンセンサス：1,489億円の黒字、レンジ：▲2,700～＋3,300億円）と、市場予想に反して赤字となった。季節調整値でみると、593億円の赤字（9月：1,252億円の赤字）と、2ヶ月連続の赤字となっている。季節調整済経常収支が2ヶ月連続で赤字になるのは、現行統計で比較可能な1996年以来初めてのことで、高水準の貿易赤字が続くなか、経常収支にも赤字方向への圧力が強まっている。

内訳をみると、貿易収支（季節調整値）が9月に引き続き大幅な赤字となった（9月：13,487億円赤字→10月：10,982億円赤字）。輸出金額は増加（9月：前月比▲4.7%、10月：同＋2.8%）、輸入金額は減少（9月：同＋8.0%、10月：同▲1.4%）したため単月の赤字幅は縮小しているが、引き続き1兆円を上回る高水準の赤字が継続している。このところ、新興国経済の減速などを背景に輸出額の増加ペースが緩やかなものにとどまる中、半導体電子部品やスマートフォンを含む通信機の輸入増などを背景に、輸入額の増勢が衰えない。前半は輸出の回復によって赤字縮小の動きがみられた貿易収支だが、ここへきて赤字幅は再度拡大する形になっている。

○所得収支黒字は緩やかに拡大

貿易外収支（季節調整値）の動きをみると、所得収支は13,154億円の黒字（9月：14,675億円黒字）と黒字幅が縮小した。単月の黒字額は縮小しているが、引き続き高水準での推移が続いている。所得収支黒字が緩やかな拡大局面にあるとの見方を変更する必要はない。

所得収支の内訳をみると、直接投資収益（9月：4,993億円黒字→10月：3,829億円黒字）、証券投資収益（9月：9,349億円→10月：8,748億円）ともに縮小となっている。先行きに関しては、直接投資収益は①海外経済の緩やかな回復、②海外直接投資の増加、を背景に拡大傾向で推移するだろう。証券投資収益についても、豊富な対外純資産や緩やかな円安などを背景に水準を切り上げていく公算が大きい。

サービス収支は、1,767億円の赤字（9月：1,462億円赤字）となった。前半は輸送収支や旅行収支の赤字縮小などを背景に、赤字幅の縮小傾向が明確化していたが、足元の赤字縮小ペースには一服感が窺える。内訳をみると、「その他サービス収支」の赤字転化が、サービス収支の赤字を拡大させている。項目別に原数値をみると、研究開発費を中心とした「その他業務・専門技術サービス」、「仲介貿易」の対外支払などが前年比増加となっている。こうした動きが、サービス収支赤字の縮小一服に繋がっているようだ。

○年度内に再度の経常赤字も

先行きを展望すると、消費税率引き上げ前の駆け込み需要を背景に、目先の輸入については増勢が強まる可能性が高く、目立った貿易赤字の縮小、および経常黒字の拡大は見込みづらい状況にある。今後、駆け込み需要が本格化することを勘案すれば、貿易赤字の拡大によって年度内に季節調整済経常収支が再度赤字を記録する可能性も充分にある。

ただ、今後恒常的に経常赤字が続くかという点、その可能性は低いとみている。先行きは、①海外経済の緩やかな加速などを背景に輸出が持ち直すこと、②所得収支黒字の拡大傾向が続くこと、③消費税率引き上げ後の内需の鈍化によって輸入の増勢が弱まること、を背景に赤字方向への圧力は弱まる公算が大きい。消費税の影響が一巡する2014年度以降、経常収支は緩やかな黒字拡大へ向かうとみている。



